

**Netra SPARC T4-1B サーバーモジュール  
設置マニュアル**



Part No. E27786-01  
2012 年 1 月

Copyright © 2012, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスに基づいて使用される SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ログ、AMD Opteron ログは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



リサイクル  
してください



Adobe PostScript

# 目次

---

このマニュアルの使用方法	v
サーバーモジュールの概要	1
インストール作業の概要	1
サーバーモジュールの概要	2
フロントパネルおよび背面パネルのコンポーネント	4
サーバーモジュールと設置場所の仕様の確認	7
物理仕様	7
環境仕様	8
電気仕様	9
設置の準備	11
リスト	12
取り扱い上の注意	13
静電気放電に関する注意事項	13
設置に必要なツール	14
▼ 設置中のサーバーモジュールとの通信を計画する	15
ドングルケーブル	16
サーバーモジュールの取り付け	19
▼ モジュラーシステムとサーバーモジュールを準備する	19
▼ オプションのコンポーネントを取り付ける	20
▼ サーバーモジュールをシャーシに挿入する	21

## サーバーモジュールへのはじめての電源投入 23

- ▼ 方法 1a – CMM (Web インタフェース) を使用してホストの電源を入れる 24
- ▼ 方法 1b – CMM (CLI) を使用してホストの電源を入れる 25
- ▼ 方法 2 – CMM SER MGT ポート (CLI) を使用してホストの電源を入れる 27
- ▼ 方法 3 – フロントパネル (SP CLI) からホストの電源を入れる 30

## Oracle Solaris OS の構成 33

- ▼ OS を構成する 33
  - ▼ Oracle Solaris ソフトウェアをネットワークからインストールする 34
- ### Oracle Solaris の構成パラメータ 34
- ▼ 静的 IP アドレスを SP に割り当てる 36

## 用語集 39

## 索引 45

# このマニュアルの使用方法

---

このドキュメントでは、Oracle Sun Netra 6000 モジュールシステムに Oracle Netra SPARC T4-1B サーバーモジュールを取り付けるときに役立つ、作業手順と参考資料を示します。

- v ページの「関連ドキュメント」
- vi ページの「フィードバック」
- vi ページの「サポートとアクセシビリティ」

---

## 関連ドキュメント

---

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	<a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>
Netra SPARC T4-1B サーバーモジュール	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=Netra_SPARCT4-1B">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=Netra_SPARCT4-1B</a>
Sun Netra 6000 モジュールシステム	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=Netra6000">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=Netra6000</a>
Oracle Integrated Lights Out Manager (Oracle ILOM)	<a href="http://www.oracle.com/technetwork/documentation/sys-mgmt-networking-190072.html">http://www.oracle.com/technetwork/documentation/sys-mgmt-networking-190072.html</a>
Oracle Solaris OS およびその他のシステムソフトウェア	<a href="http://www.oracle.com/technetwork/indexes/documentation/#sys_sw">http://www.oracle.com/technetwork/indexes/documentation/#sys_sw</a>
Oracle VTS ソフトウェア	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=OracleVTS7.0">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=OracleVTS7.0</a>

---

---

## フィードバック

このドキュメントについてのフィードバックは次の URL からお寄せください。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

---

## サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた 電子的なサポートへのア クセス	<a href="http://support.oracle.com">http://support.oracle.com</a>  聴覚障害の方へ: <a href="http://www.oracle.com/accessibility/support.html">http://www.oracle.com/accessibility/support.html</a>
アクセシビリティに対す る Oracle のコミットメントに ついて	<a href="http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html">http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html</a>

---

# サーバーモジュールの概要

---

次に示すトピックでは、サーバーモジュールおよび取り付け作業について説明します。

- [1 ページの「インストール作業の概要」](#)
- [2 ページの「サーバーモジュールの概要」](#)
- [4 ページの「フロントパネルおよび背面パネルのコンポーネント」](#)

## 関連情報

- [7 ページの「サーバーモジュールと設置場所の仕様の確認」](#)

---

# インストール作業の概要

サーバーモジュールを取り付けるには、次の作業手順に従います。

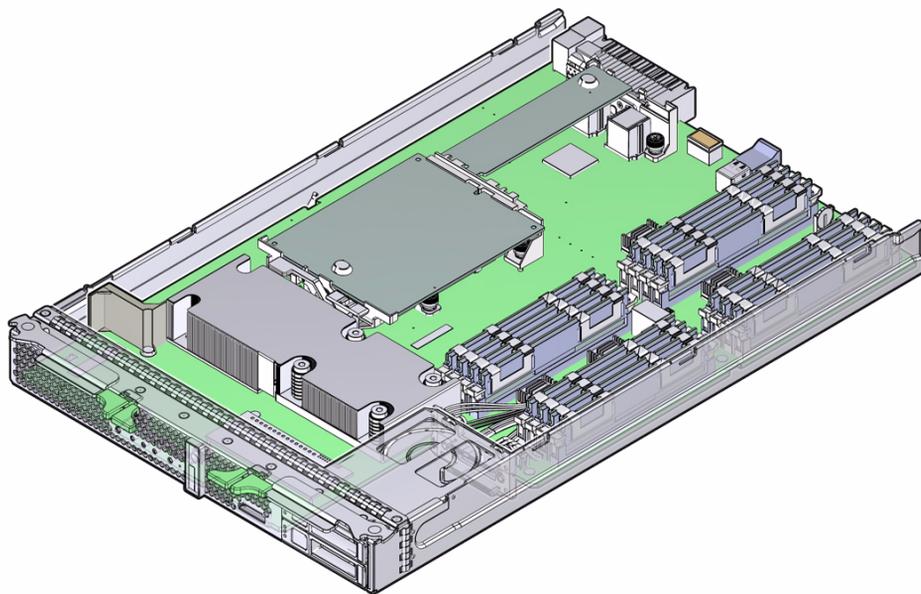
手順	説明	リンク
1.	「ご使用にあたって」で最新の情報について確認します。	<a href="#">Netra SPARC T4-1B サーバーモジュールご使用にあたって</a>
2.	サーバーモジュールの機能とコンポーネントを確認します。	<a href="#">2 ページの「サーバーモジュールの概要」</a> <a href="#">4 ページの「フロントパネルおよび背面パネルのコンポーネント」</a>
3.	サーバーモジュールの要件を確認します。	<a href="#">7 ページの「サーバーモジュールと設置場所の仕様の確認」</a>
4.	注文したすべてのアイテムがそろっていることを確認します。	<a href="#">12 ページの「リスト」</a>
5.	安全性および静電放電に関する注意事項を確認します。	<a href="#">13 ページの「取り扱い上の注意」</a> <a href="#">13 ページの「静電気放電に関する注意事項」</a>
6.	必要な工具類を用意します。	<a href="#">14 ページの「設置に必要なツール」</a>

手順	説明	リンク
7.	取り付け中にサーバーモジュールに接続する方法を選択します。	<a href="#">15 ページの「設置中のサーバーモジュールとの通信を計画する」</a> <a href="#">16 ページの「ドングルケーブル」</a>
8.	サーバーモジュールのオプションのコンポーネントを取り付け、サーバーモジュールをシャーシに取り付けます。	<a href="#">19 ページの「サーバーモジュールの取り付け」</a>
9.	はじめてサーバーに電源を投入します。	<a href="#">23 ページの「サーバーモジュールへのはじめての電源投入」</a>
10.	ホストの OS を設定します。	<a href="#">33 ページの「Oracle Solaris OS の構成」</a>

### 関連情報

- [2 ページの「サーバーモジュールの概要」](#)
- [4 ページの「フロントパネルおよび背面パネルのコンポーネント」](#)

## サーバーモジュールの概要

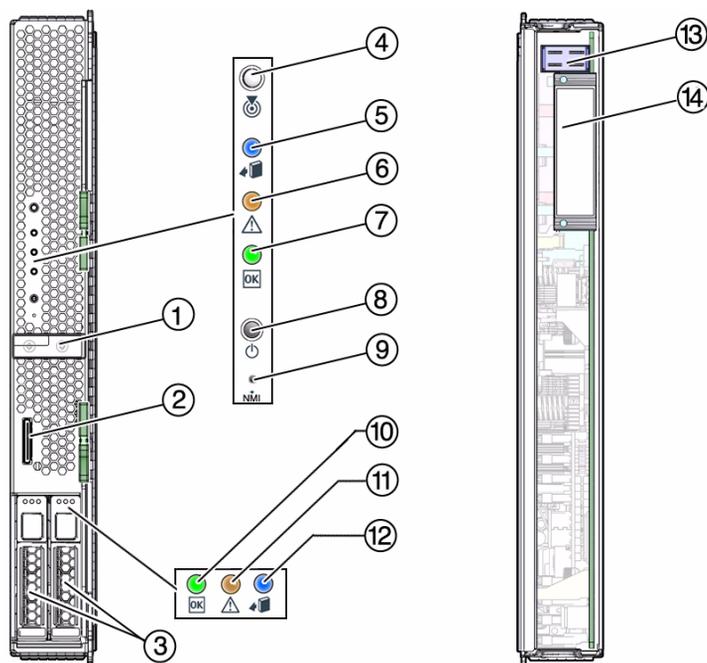


機能	説明
プロセッサ	SPARC T4 マルチコアプロセッサ (1 個)。
メモリー	DDR3 DIMM 用スロット (16 個)。
内蔵ハードドライブ	ホットプラグ対応 2.5 インチ SAS-2 ハードドライブ (2 台まで)。
REM	RAID 拡張モジュール (ハードドライブ管理) および付属の RAID コントローラ。サポートされている REM については、『Netra SPARC T4-1B サーバーモジュールご使用にあたって』を参照してください。
UCP	フロントパネル内の UCP (1 個) 次のサーバーモジュールのコネクタの接続には UCP-3 または UCP-4 ドングルケーブルを使用してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• USB 2.0 (2 接続)</li> <li>• シリアル</li> <li>• VGA ビデオ</li> <li>• ローカル KVMS 対応</li> </ul>
アーキテクチャー	SPARC V9 アーキテクチャー、ECC 保護 プラットフォームグループ: sun4v プラットフォーム名: ORCL, Netra-SPARC-T4-1B
Ethernet ポート	10/100/1000Mb Intel 82576EB ポート (2 個)。
PCI I/O	Gen2 対応 PCI EM スロット (2 個)。
FEM	サポートされている FEM については、『Netra SPARC T4-1B サーバーモジュールご使用にあたって』を参照してください。
システムファームウェア	SP にプリインストール済み。 注 - 最新ファームウェアの詳細については、『Netra SPARC T4-1B サーバーモジュールご使用にあたって』を参照してください。
オペレーティングシステム	Oracle Solaris OS 注 - プリインストールされているソフトウェアおよびサポートされる Oracle Solaris OS リリースに必要なパッチの詳細については、『Netra SPARC T4-1B サーバーモジュールご使用にあたって』を参照してください。
リモート管理	Oracle ILOM を実行する SP。
電源	モジュラーシステムシャーシは電源を備えています。
冷却装置	モジュラーシステムシャーシは環境制御機能を備えています。

## 関連情報

- [4 ページの「フロントパネルおよび背面パネルのコンポーネント」](#)
- [1 ページの「インストール作業の概要」](#)
- [7 ページの「サーバーモジュールと設置場所の仕様の確認」](#)

# フロントパネルおよび背面パネルのコンポーネント



番号	説明
1	RFID タグ (サーバーモジュールのシリアル番号を記載)
2	ユニバーサルコネクタポート (UCP)
3	ドライブスロット
4	白色の LED: ロケータ (物理存在スイッチとして機能)
5	青色の LED: 取り外し可能
6	オレンジ色の LED: 障害 (保守要求)
7	緑色の LED: OK
8	電源ボタン
9	リセットボタン: NMI (保守専用)
10	緑色の LED: ドライブ OK

---

番号	説明
11	オレンジ色の LED: ドライブ障害 (保守要求)
12	青色の LED: ドライブ取り外し可能
13	シャーシ背面の電源コネクタ
14	シャーシ背面のデータ接続

---

### 関連情報

- [2 ページの「サーバーモジュールの概要」](#)
- [1 ページの「インストール作業の概要」](#)



# サーバーモジュールと設置場所の仕様の確認

---

サイト計画に関する情報は、Sun Netra 6000 モジュラーシステムのドキュメントに記載されています。『Sun Netra 6000 モジュラーシステム設置ガイド』を参照してください。

次に示すトピックは、サーバーモジュールの設置を計画するときに役立ちます。

- [7 ページの「物理仕様」](#)
- [8 ページの「環境仕様」](#)
- [9 ページの「電気仕様」](#)

## 関連情報

- [19 ページの「サーバーモジュールの取り付け」](#)
- [1 ページの「インストール作業の概要」](#)
- [2 ページの「サーバーモジュールの概要」](#)

---

## 物理仕様

寸法	ヤード法	メートル法
高さ	12.9 インチ	327.2 mm
幅	1.8 インチ	44.5 mm
奥行	20.1 インチ	511.7 mm
重量*	16.4 ポンド	7.4 kg

\* 重量の仕様はモデルおよび内蔵オプションによって異なります。

## 関連情報

- [8 ページの「環境仕様」](#)
- [9 ページの「電気仕様」](#)

---

# 環境仕様

条件	要件
動作時の温度	5°C - 40°C (41°F - 104°F) 短時間の場合: -5°C - 55°C (23°F - 131°F)
動作時の相対湿度	5% - 85% (結露なし)
非動作時の温度	-40°C (-40°F) - 65°C (149°F)
短時間の場合の相対湿度	5% - 90% (結露なし)、ただし乾燥空気 1 kg 当たりの水 0.024 kg 以下 (水 0.053 ポンド/乾燥空気 2.205 ポンド)
動作時の高度	40°C で最高 3000 m、35°C で最高 4000 m
非動作時の温度	-40°C - 70°C (-40°F - 158°F)
非動作時の相対湿度	最高 93% (結露なし)、40°C (104°F)
非動作時の高度	最高 12,000 m (40,000 フィート)
音響ノイズ	動作時/アイドリング時 7.2 B (LwAd: 1 B = 10 dB)

## 関連情報

- [7 ページの「物理仕様」](#)
- [9 ページの「電気仕様」](#)

---

# 電気仕様

寸法	値
電圧 (公称)	シャーシのバックプレーンから 12V メイン シャーシのバックプレーンから 3.3V AUX
電力 (最大)	540W (推定)

## 関連情報

- [7 ページの「物理仕様」](#)
- [8 ページの「環境仕様」](#)



# 設置の準備

---

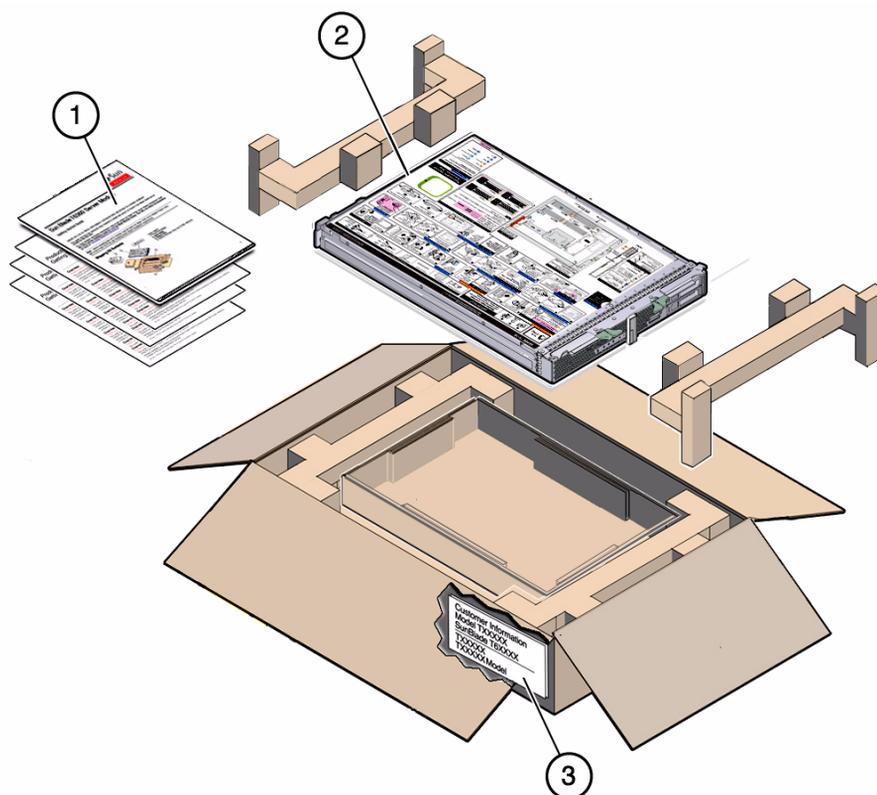
次に示すトピックは、サーバーモジュールの設置を計画するときに役立ちます。

- [12 ページの「リスト」](#)
- [13 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [13 ページの「静電気放電に関する注意事項」](#)
- [14 ページの「設置に必要なツール」](#)
- [15 ページの「設置中のサーバーモジュールとの通信を計画する」](#)
- [16 ページの「ドングルケーブル」](#)

## 関連情報

- [19 ページの「サーバーモジュールの取り付け」](#)
- [1 ページの「インストール作業の概要」](#)

# リスト



番号	説明
1	印刷物 (ご使用の手引きなど)。
2	サーバーモジュール。
3	顧客情報シート (梱包箱の外側に添付)。サーバーモジュールの MAC アドレスと、インストール済みのハードウェアおよびソフトウェアに関する情報が記載されていますので、保管しておいてください。

## 関連情報

- [13 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [13 ページの「静電気放電に関する注意事項」](#)

- 14 ページの「設置に必要なツール」
- 15 ページの「設置中のサーバーモジュールとの通信を計画する」
- 16 ページの「ドングルケーブル」

---

## 取り扱い上の注意

- サーバーモジュールを運ぶときは両方の手を使ってください。
- フロントパネルの取り外しレバーを引き出すのは、作業手順の実行において必要なときだけにしてください。

### 関連情報

- 7 ページの「物理仕様」
- 12 ページの「リスト」
- 13 ページの「静電気放電に関する注意事項」
- 14 ページの「設置に必要なツール」
- 15 ページの「設置中のサーバーモジュールとの通信を計画する」
- 16 ページの「ドングルケーブル」

---

## 静電気放電に関する注意事項

電子機器は、静電気により損傷する可能性があります。サーバーモジュールの設置または保守作業時は、接地された静電気防止リストストラップ、フットストラップ、または同様の安全器具を使用して、静電気による損傷 (ESD) を防止します。

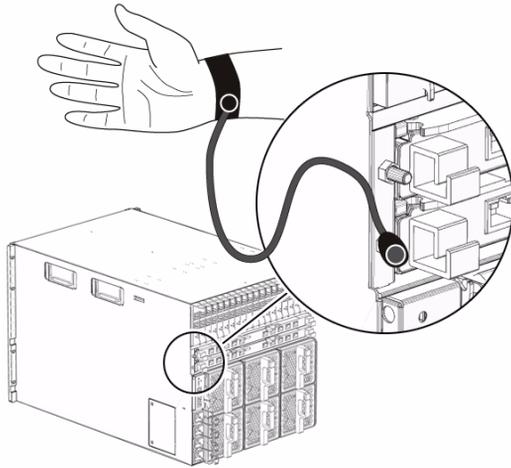


---

**注意** – 電子コンポーネントが静電気によって損傷すると、システムが永続的に使用できなくなる可能性があります。電子コンポーネントを静電気による損傷から保護するには、静電気防止用マット、静電気防止袋、使い捨て静電気防止用マットなどの静電気防止面にコンポーネントを置いてください。システムコンポーネントを取り扱うときは、シャーシの金属面に接続された静電防止用アースストラップを着用してください。

---

次の図に、静電気防止装置を接続できるモジュラーシステムシャーシの接地コネクタを示します。



#### 関連情報

- [12 ページの「リスト」](#)
- [13 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [14 ページの「設置に必要なツール」](#)
- [15 ページの「設置中のサーバーモジュールとの通信を計画する」](#)
- [16 ページの「ドングルケーブル」](#)

---

## 設置に必要なツール

サーバーモジュールを取り付けるときは、サーバーモジュールの内部にコンポーネントを取り付ける必要があるかどうかにかかわらず、次の工具があれば十分です。

- 静電気防止用マット
- 静電気防止用リストストラップ
- UCP-3 または UCP-4 ドングルケーブル
- 端末または端末エミュレータ
- スタイラス (電源ボタンの押下用)

#### 関連情報

- [16 ページの「ドングルケーブル」](#)
- [13 ページの「取り扱い上の注意」](#)

- 13 ページの「静電気放電に関する注意事項」
- 15 ページの「設置中のサーバーモジュールとの通信を計画する」
- 12 ページの「リスト」

## ▼ 設置中のサーバーモジュールとの通信を計画する

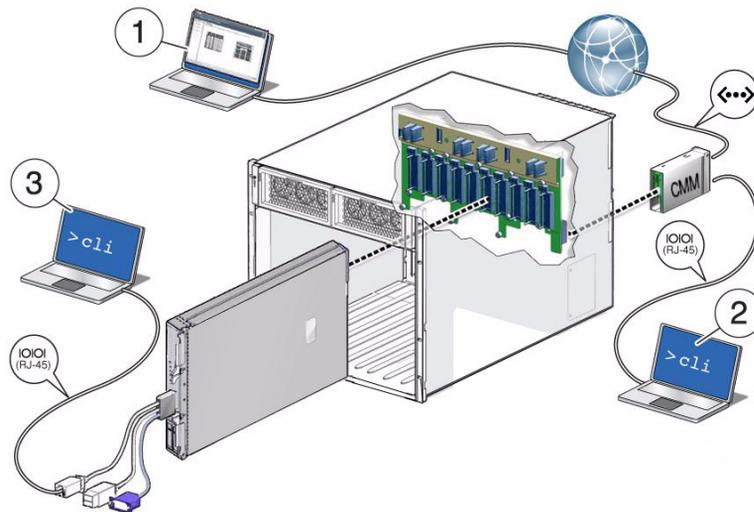
初期設置中のサーバーモジュールと通信する方法はいくつかあります。使用する方法について計画してください。設置を行う前に、選択した方法に必要な装置、情報、およびアクセス権を用意します。

---

注 - IP および MAC アドレスの特定および構成の詳細については、『SPARC および Netra SPARC T4 シリーズサーバー管理マニュアル』のネットワークアドレス情報の構成方法を参照してください。

---

- サーバーモジュール SP と通信するための接続方法をいずれか 1 つ選択します。  
接続方法を下記の図に示し、その説明を表にまとめています。選択した方法に必要なケーブル、監視デバイス、アドレス、およびパスワードを用意します。



方法	接続の説明	接続の要件	サポートされるインタフェース
1	Ethernet 接続元: CMM NET MGT ポート 接続先: 使用中のネットワーク	CMM NET MGT ポートを使用中のネットワークに接続します。 CMM の IP アドレスを把握しておく必要があります。 ネットワークからは、CMM の IP アドレスを使用して、CMM 上の Oracle ILOM にログインする必要があります。次に、Oracle ILOM プロキシを使用して、サーバーモジュールの SP Oracle ILOM インタフェースに移動できます。 <a href="#">24 ページの「方法 1a – CMM (Web インタフェース) を使用してホストの電源を入れる」</a> および <a href="#">25 ページの「方法 1b – CMM (CLI) を使用してホストの電源を入れる」</a> を参照してください。	a) CMM Oracle ILOM Web インタフェース b) CLI
2	シリアル 接続元: CMM SER MGT ポート 接続先: 端末デバイス	CMM SER MGT RJ-45 ポートに接続された端末デバイス。この接続から、Oracle ILOM を使用して、サーバーモジュールの SP Oracle ILOM CLI インタフェースに移動できます。 <a href="#">27 ページの「方法 2 – CMM SER MGT ポート (CLI) を使用してホストの電源を入れる」</a> を参照してください。	CMM Oracle ILOM CLI
3	シリアル 接続元: サーバーモジュール SP UCP ポート (ドングルが必要) 接続先: 端末デバイス	サーバーモジュールに直接接続する UCP-3 ドングルケーブルと、ドングルケーブル上の RJ-45 コネクタに接続する端末デバイス。 <a href="#">30 ページの「方法 3 – フロントパネル (SP CLI) からホストの電源を入れる」</a> を参照してください。	SP Oracle ILOM CLI

### 関連情報

- [16 ページの「ドングルケーブル」](#)
- [12 ページの「リスト」](#)
- [13 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [13 ページの「静電気放電に関する注意事項」](#)
- [14 ページの「設置に必要なツール」](#)

## ドングルケーブル

設定、テスト、または保守が目的の場合は、サーバーモジュール SP にケーブルを直接接続することができます。そのためにはまず、サーバーモジュールのフロントパネルにある UCP にドングルケーブルを接続します。

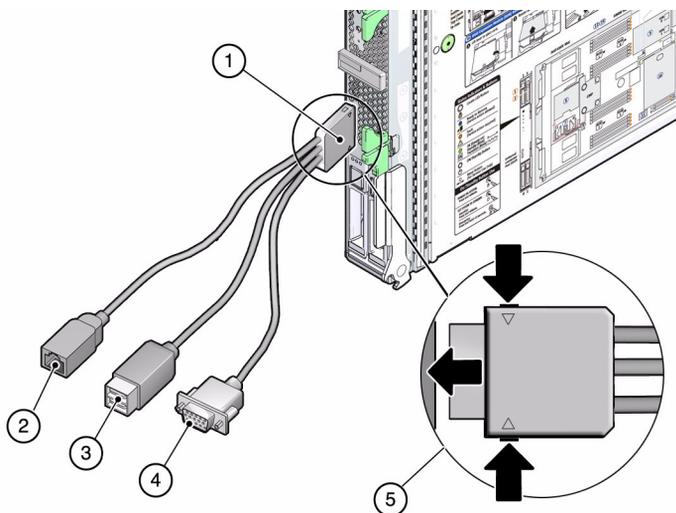


**注意** – 使用しないときは、ドングルケーブルを外しておいてください。ドングルケーブルは、電磁適合性の遵守に関して評価されていないため、通常のシステム運用時には使用しないでください。

使用できるドングルケーブルには次の 2 種類があります。

- **UCP-3** – サーバーモジュールに付属の 3 コネクタのドングルケーブル (推奨)。サーバーモジュール SP への接続には RJ-45 コネクタを使用します。
- **UCP-4** – 4 コネクタのドングルケーブル (以前のバージョン)。サーバーモジュール SP への接続には DB-9 コネクタを使用する必要があります。RJ-45 コネクタはサポートされていません。RJ-45 接続が必要な場合は、オプションの DB-9/RJ-45 アダプタを DB-9 コネクタに接続します。

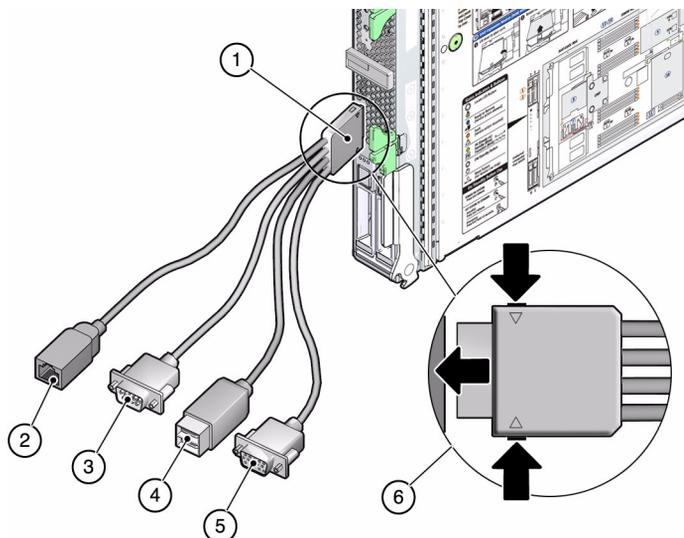
図: UCP-3 ドングルケーブル (3 コネクタ)



図の説明

- 1 サーバーモジュール UCP に接続されたドングルコネクタ
- 2 RJ-45 シリアルコネクタ
- 3 USB 2.0 (2 コネクタ)
- 4 VGA 15 ピンコネクタ (メス)
- 5 挿入およびリリースボタン

図: UCP-4 ドングルケーブル (4 コネクタ)



図の説明

- 
- 1 サーバモジュール UCP に接続されたドングルコネクタ
  - 2 RJ-45 シリアルコネクタ (UCP-4 のものは使用しないでください)
  - 3 DB-9 シリアルオスコネクタ (TTYA)
  - 4 USB 2.0 (2 コネクタ)
  - 5 VGA 15 ピンコネクタ (メス)
  - 6 挿入およびリリースボタン
- 

関連情報

- [12 ページの「リスト」](#)
- [13 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [13 ページの「静電気放電に関する注意事項」](#)
- [14 ページの「設置に必要なツール」](#)
- [15 ページの「設置中のサーバモジュールとの通信を計画する」](#)

# サーバーモジュールの取り付け

次に示すトピックでは、サーバーモジュールをモジュラーシステムに物理的に取り付ける方法を示します。

手順	説明	リンク
1.	モジュラーシステムのシャーシと取り付けるサーバーモジュールを準備します。	<a href="#">19 ページの「モジュラーシステムとサーバーモジュールを準備する」</a>
2.	オプションのコンポーネントを取り付けます。	<a href="#">20 ページの「オプションのコンポーネントを取り付ける」</a>
3.	サーバーモジュールをシャーシに挿入します。	<a href="#">21 ページの「サーバーモジュールをシャーシに挿入する」</a>

## 関連情報

- [23 ページの「サーバーモジュールへのはじめての電源投入」](#)
- [1 ページの「インストール作業の概要」](#)

## ▼ モジュラーシステムとサーバーモジュールを準備する

サーバーモジュールを取り付ける前に、Sun Netra 6000 モジュラーシステム (シャーシ) を設置および構成する必要があります。

1. モジュラーシステムが設置されていて、動作することを確認します。  
以下の条件を満たすことで、サーバーモジュールを確実に取り付けることができます。
  - a. モジュラーシステムを目的のラックに取り付けてから、サーバーモジュールを取り付けます。
  - b. モジュラーシステムの CMM を介してサーバーモジュールを管理する計画の場合は、ネットワークで実行するように CMM を構成します。

- c. モジュラーシステムシャーシに電源が投入されていることを確認します。
- d. モジュラーシステムが Oracle の最新バージョンの CMM ILOM ファームウェアで実行していることを確認します。

---

注 – モジュラーシステムと CMM ILOM の準備については、『Sun Netra 6000 モジュラーシステム設置ガイド』を参照してください。

---

2. サーバーモジュールを箱から取り出します。  
フィルターパネルを取り外してから 60 秒以内にサーバーモジュールを挿入できるようにしてください。
3. オプションのコンポーネントを取り付けます。  
[20 ページの「オプションのコンポーネントを取り付ける」](#)を参照してください。
4. サーバーモジュールの物理的な取り付けが済んだら、サーバーモジュールとの通信の準備をできるだけ早く進めます。  
電源の入ったモジュラーシステムにサーバーモジュールを挿入すると、サーバーモジュールに即座に電源が供給され、SP によってメッセージが生成されます。メッセージを確認したい場合は、[15 ページの「設置中のサーバーモジュールとの通信を計画する」](#)で説明されているいずれかの方法で接続する必要があります。

#### 関連情報

- [20 ページの「オプションのコンポーネントを取り付ける」](#)
- [21 ページの「サーバーモジュールをシャーシに挿入する」](#)

---

## ▼ オプションのコンポーネントを取り付ける

サーバーモジュールの初期構成の一部としてご注文いただくオプションコンポーネントは、サーバーモジュールに取り付けられた状態で出荷されます。このようなオプションコンポーネントは、サーバーモジュールのパッケージに添付の顧客情報シートに記載されています。

ただし、オプションコンポーネントを別個にご注文いただいた場合は、サーバーモジュールをモジュラーシステムシャーシに取り付ける前に、そのオプションコンポーネントをサーバーモジュールに取り付ける必要があります。

1. サーバーモジュールにオプションのコンポーネントを取り付けます。  
オプションのコンポーネントを取り付ける場合は、『Netra SPARC T4-1B サーバーモジュールサービスマニュアル』とオプションのコンポーネントのドキュメントを参照してください。
2. サーバーモジュールを閉じます。
3. サーバーモジュールをシャーシに挿入します。  
[21 ページの「サーバーモジュールをシャーシに挿入する」](#)を参照してください。

#### 関連情報

- [19 ページの「モジュラーシステムとサーバーモジュールを準備する」](#)
- [20 ページの「オプションのコンポーネントを取り付ける」](#)

---

## ▼ サーバーモジュールをシャーシに挿入する

1. モジュラーシステムとサーバーモジュールを準備します (必要に応じて)。  
[19 ページの「モジュラーシステムとサーバーモジュールを準備する」](#)を参照してください。
2. オプションのコンポーネントを取り付けます (必要に応じて)。  
[20 ページの「オプションのコンポーネントを取り付ける」](#)を参照してください。
3. サーバーモジュールの背面コネクタから保護カバーを取り外します。
4. サーバーモジュールの取り付け先となるシャーシのスロットを確認します。  
サーバーモジュールを挿入する直前まで、スロットのフィルターパネルは取り外さないでください。モジュラーシステム内の通気、熱、電磁妨害を正しい状態に保つため、すべてのスロットにサーバーモジュールまたはフィルターパネルが入った状態にすることをお勧めします。
5. 選択したシャーシスロットからフィルターパネルを取り外します。  
フィルターパネルの取り外しレバーを引き出して、シャーシからパネルをまっすぐに引き抜きます。

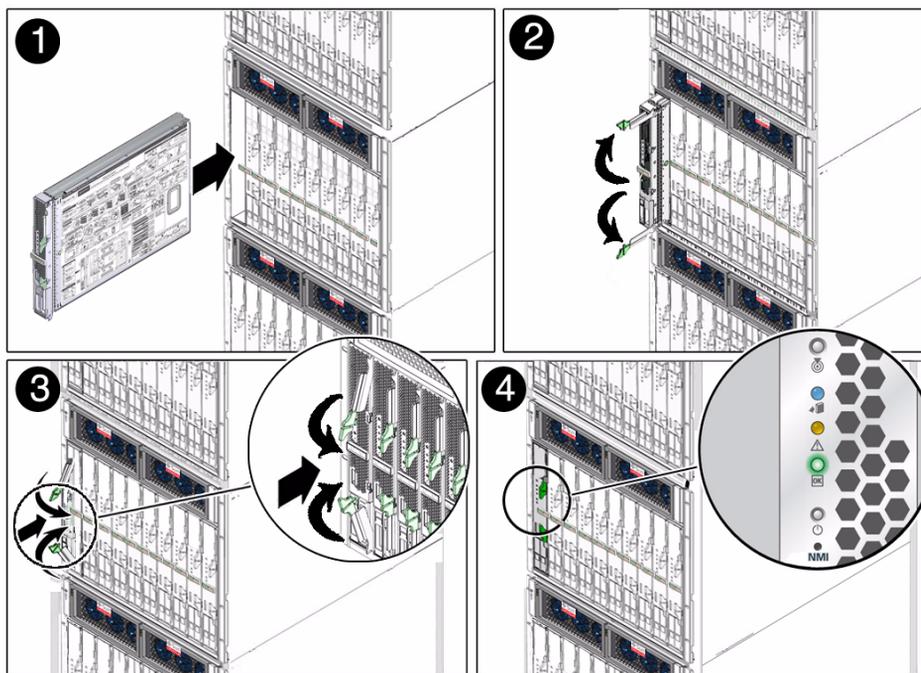


---

**注意** - フィルターパネルを取り外してから 60 秒以内にサーバーモジュールを挿入できるようにしてください。

---

6. 取り外しレバーが右側になるように、両手でサーバーモジュールを縦に配置します (図 1)。



7. サーバーモジュールを空のスロットに押し入れていき、モジュールの前面がシャーシの前面から約 1.5 cm (1/2 インチ) ほど手前になる位置で止めます (図 2)。
8. 取り外しレバーをつまんで開きます (図 2)。
9. サーバーモジュールをシャーシに押し込み、取り外しレバーを閉じます (図 2 および 3)。
10. サーバーモジュールに電源が入ったら、診断メッセージを確認します (図 4)。  
サーバーモジュールを電源の入ったシャーシに挿入すると、すぐにサーバーモジュールがスタンバイモードになり、SP が初期化します。フロントパネルの LED が 3 回点滅し、フロントパネルの緑色の OK LED が数分間点滅します。4 ページの「フロントパネルおよび背面パネルのコンポーネント」を参照してください。

#### 関連情報

- 19 ページの「モジュラーシステムとサーバーモジュールを準備する」
- 20 ページの「オプションのコンポーネントを取り付ける」
- 4 ページの「フロントパネルおよび背面パネルのコンポーネント」

# サーバーモジュールへのはじめての電源投入

サーバーモジュールをモジュラーシステムに取り付けたら、サーバーモジュールのホストにはじめて電源を入れます。

15 ページの「[設置中のサーバーモジュールとの通信を計画する](#)」で選択した接続方法に応じて、次の表のいずれかのタスクを実行してサーバーモジュールの電源を入れます。

説明	リンク
CMM と同じネットワーク上のブラウザで、CMM ILOM Web インタフェースを使用する。	<a href="#">24 ページの「方法 1a – CMM (Web インタフェース) を使用してホストの電源を入れる」</a>
CMM と同じネットワーク上のシステムの端末ウィンドウで、CMM ILOM CLI を使用する。	<a href="#">25 ページの「方法 1b – CMM (CLI) を使用してホストの電源を入れる」</a>
CMM SER MGT ポートに接続された端末デバイスで、CMM ILOM CLI を使用する。	<a href="#">27 ページの「方法 2 – CMM SER MGT ポート (CLI) を使用してホストの電源を入れる」</a>
サーバーモジュールのフロントパネルに接続された端末デバイスで ( dongle を使用)、サーバーモジュールの SP ILOM CLI を使用する。	<a href="#">30 ページの「方法 3 – フロントパネル (SP CLI) からホストの電源を入れる」</a>

## 関連情報

- [33 ページの「Oracle Solaris OS の構成」](#)
- [1 ページの「インストール作業の概要」](#)
- SPARC および Netra SPARC T4 シリーズサーバー管理マニュアル

---

## ▼ 方法 1a – CMM (Web インタフェース) を使用してホストの電源を入れる

RJ-45 NET MGT 0 Ethernet ポートを介して CMM に接続します。この Ethernet 接続は CMM との CLI および Web インタフェースの両方をサポートしていますが、ここで紹介する手順では Web インタフェースを使用します。デフォルトで、サーバーモジュールは、DHCP を使用して SP の IP アドレスを取得するように構成されています。

1. CMM の IP アドレスを確認します。
2. 使用中のネットワークに CMM が接続されていることを確認します。

ネットワーク接続は、CMM 上の NET MGT ラベルの付いた RJ-45 コネクタを通して行われます。
3. モジュラーシステムと同じネットワーク上にあるブラウザから、CMM の IP アドレスを入力します。

たとえば、CMM の IP アドレスが 129.99.99.99 の場合は、ブラウザで `http://129.99.99.99` と入力します。

ILOM のログインウィンドウが表示されます。
4. 自分のユーザー名とパスワードを入力して CMM 上の ILOM にログインします。

ILOM root パスワードの出荷時のデフォルトは `changeme` ですが、ご使用の環境では変更されている可能性があります。

これで CMM ILOM の Web インタフェースにログインしました。
5. シャーシビュー (モジュラーシステムの画像) が Web インタフェースに表示されない場合は、左のナビゲーションパネルから「Chassis (シャーシ)」を選択します。
6. 次のいずれかの方法でサーバーモジュール SP に移動します。
  - モジュラーシステムのシャーシビュー (画像) で、新しく取り付けられたサーバーモジュールを選択します。
  - 左のシャーシナビゲーションパネルから、新しく取り付けられたサーバーモジュール (「Blade 0 - 9 (ブレード 0-9)」と表示) を選択します。
7. ログインを求められたら、以下の出荷時のデフォルトのユーザー名とパスワードを入力します。
  - ユーザー名: `root`
  - パスワード: `changeme`

これで、サーバーモジュールの SP に接続しました。

8. 遠隔コンソールを開きます。
  - a. トップメニューで、「Remote Control (遠隔コントロール)」タブを選択します。
  - b. 「Use serial redirection (シリアルリダイレクトを使用する)」をクリックします。
  - c. 「Launch Remote Console (リモートコンソールの起動)」をクリックします。  
遠隔コンソールにホストメッセージが表示され、サーバーモジュールに電源を入れるときに Oracle Solaris OS をインストールするよう求められます。
9. サーバーモジュールの電源を入れます。
  - a. 「Remote Power Control」タブを選択します。
  - b. メニューをクリックして「Power On (電源投入)」を選択します。
  - c. 「Save (保存)」を選択します。
  - d. 「Are you sure you want to perform a Power On of the server (サーバーの電源投入を実行してよいですか)」というプロンプトが表示されたら、「OK」を選択します。  
サーバーモジュールホストにはじめて電源が入ります。
10. この段階まで来たら、目的どおりに Oracle Solaris OS を構成できます。  
[33 ページの「Oracle Solaris OS の構成」](#)を参照してください。

#### 関連情報

- [15 ページの「設置中のサーバーモジュールとの通信を計画する」](#)

---

## ▼ 方法 1b – CMM (CLI) を使用してホストの電源を入れる

RJ-45 NET MGT 0 Ethernet ポートを介して CMM に接続します。この Ethernet 接続は CMM SP との CLI および Web インタフェースの両方をサポートしていますが、ここで紹介する手順では CMM CLI を使用します。

1. CMM の IP アドレスを確認します。
2. 使用中のネットワークに CMM が接続されていることを確認します。  
ネットワーク接続は、CMM 上の NET MGT ラベルの付いた RJ-45 コネクタを通して行われます。

3. SSH クライアントを使用して CMM にログインします。

```
$ ssh root@cmm_ip_address
```

*cmm\_ip\_address* を CMM の IP アドレスに変更します。

4. プロンプトが表示されたら、CMM ILOM root アカウントのパスワードを入力します。

ILOM root パスワードの出荷時のデフォルトは *changeme* ですが、ご使用の環境では変更されている可能性があります。

```
Password: CMM_ILOM_password
Oracle(TM) Integrated Lights Out Manager
Version 3.x.x
...
Warning: password is set to factory default.
->
```

これで、CMM ILOM の CLI にログインしました。

---

注 – CMM ILOM からログアウトする準備ができたなら、*exit* と入力します。

---

5. サーバーモジュール SP に移動します。

```
-> cd /CH/BLn/SP/cli
```

ターゲットサーバーモジュールが取り付けられているモジュラーシステムのシャーシスロットを示す番号で *n* を置き換えます。

6. サーバーモジュール SP にアクセスします。

```
-> start
Are you sure you want to start /CH/BLn/SP/cli (y/n)? y
start: Connecting to /CH/BLn/SP/cli as user root
```

サーバーモジュール SP 上で root ユーザーのパスワードを入力するよう求められたら、*changeme* (出荷時のデフォルトパスワード) と入力します。

これで、サーバーモジュール SP 上の ILOM にログインしました。

7. サーバーモジュールの ILOM プロンプトで、次のように入力します。

```
-> start /SYS
Are you sure you want to start /SYS (y/n)? y
Starting /SYS. . .
```

サーバーモジュールが初期化されます。

8. 通信をサーバーモジュールホストに切り替えます。  
ILOM プロンプトが表示されたら、次のように入力します。

```
-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
...
```

サーバーモジュールで POST を完了するのに、数分かかることがあります。Oracle Solaris OS がインストールされている起動デバイスにローカルからアクセスできる場合は、サーバーモジュールが起動します。ローカルからアクセスできない場合、サーバーモジュールは boot net コマンドを使用して、ネットワーク上の起動デバイスを検索します。

これで、サーバーモジュールのホストに接続しました。

9. サーバーモジュールハードウェアの設置はこれで完了です。  
この段階まで来たら、目的どおりに Oracle Solaris OS を構成できます。[33 ページ](#)の「[Oracle Solaris OS の構成](#)」を参照してください。

#### 関連情報

- [15 ページ](#)の「[設置中のサーバーモジュールとの通信を計画する](#)」

---

## ▼ 方法 2 – CMM SER MGT ポート (CLI) を使用してホストの電源を入れる

サーバーモジュール SP にアクセスするには、まず、シャーシ上の RJ-45 シリアルポートに接続された端末または端末エミュレータを使用して、シャーシの CMM ILOM にアクセスします。次に、CMM ILOM ソフトウェアの CLI を使用してサーバーモジュール SP に接続できます。

1. シャーシに接続する端末、ノートパソコン、または端末サーバーが動作していることを確認します。
2. 端末デバイスまたは端末エミュレーションソフトウェアを次の設定で構成します。
  - 8N1 (データビット 8、パリティなし、ストップビット 1)
  - 9600 ボー (デフォルト。標準速度は最大 57600 まで設定できます)
  - ハードウェアのフローコントロール無効 (CTS/RTS)
3. シャーシのシリアルポートから端末デバイスにシリアルケーブルを接続します。  
シリアルポートの位置については、モジュラーシステムシャーシのドキュメントを参照してください。  
シリアルポートには次のピン配列を備えたケーブルが必要です。

ピン	信号の説明
1	送信要求 (Request To Send、RTS)
2	データ 端末レディー (Data Terminal Ready、DTR)
3	送信データ (TXD)
4	接地
5	接地
6	受信データ (RXD)
7	データキャリア検出 (Data Carrier Detect、DCD)
8	送信可 (Clear To Send、CTS)

4. 端末装置で Enter キーを押します。

端末デバイスと CMM の間の接続が確立されます。

シリアルポートを接続した後でモジュラーシステムの電源を入れた場合は、起動メッセージが表示されます。CMM ILOM ソフトウェアから、次のログインプロンプトが表示されます。

```
ORACLECMMnnnnnnnnnnnnnnnn login:
```

プロンプトの先頭文字列はデフォルトのホスト名です。ホスト名は接頭辞 ORACLECMM のあとに CMM ILOM の MAC アドレスが続きます。各 CMM と SP の MAC アドレスは一意です。

5. 自分のユーザー名とパスワードを入力して CMM 上の ILOM にログインします。
- ILOM root パスワードの出荷時のデフォルトは changeme ですが、ご使用の環境では変更されている可能性があります。
- これで CMM ILOM Web インタフェースにログインしました。
- ログインに成功すると、CMM ILOM に次のデフォルトのコマンドプロンプトが表示されます。

```
->
```

6. サーバーモジュールに移動します。

```
-> cd /CH/BLn/SP/cli
```

*n* を、ターゲットのサーバーモジュール (サーバーモジュールが取り付けられているスロット) を示す整数に置き換えます。

7. サーバーモジュールの Oracle ILOM CLI を起動します。

```
-> start
Are you sure you want to start /CH/BL0/SP/cli (y/n)? y
start: Connecting to /CH/BL0/SP/cli using Single Sign On
```

---

注 – CMM ILOM は、/CH/BL*n*/SP/cli (*n* はサーバーモジュールが取り付けられたスロット) の下にある user ターゲットのユーザー名を使用して、サーバーモジュール ILOM にログインします。

---

8. パスワードの入力を求められたら、デフォルトのパスワード changeme を入力します。
9. Oracle ILOM プロンプトで、次のように入力します。

```
-> start /SYS
Are you sure you want to start /SYS (y/n)? y
```

サーバーモジュールが初期化されます。

10. 通信をサーバーモジュールホストに切り替えます。

ILOM プロンプトが表示されたら、次のように入力します。

```
-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
```

サーバーモジュールで POST を完了するのに、数分かかることがあります。Oracle Solaris OS がインストールされている起動デバイスにローカルからアクセスできる場合は、サーバーモジュールが起動します。ローカルからアクセスできない場合、サーバーモジュールは boot net コマンドを使用して、ネットワーク上の起動デバイスを検索します。

これで、サーバーモジュールのホストに接続しました。

11. サーバーモジュールハードウェアの設置はこれで完了です。

この段階まで来たら、目的どおりに Oracle Solaris OS を構成できます。[33 ページの「Oracle Solaris OS の構成」](#)を参照してください。

関連情報

- [15 ページの「設置中のサーバーモジュールとの通信を計画する」](#)

---

## ▼ 方法 3 – フロントパネル (SP CLI) からホストの電源を入れる

サーバーモジュール SP に直接アクセスするには、サーバーモジュール前面の UCP にドングルケーブルを接続します。



---

**注意** – ドングルケーブルは、設定、テスト、または保守のために使用し、使用しないときは取り外すようにしてください。ドングルケーブルは、電磁適合性の遵守に関して評価されていないため、通常の運用時には使用しないでください。[16 ページの「ドングルケーブル」](#)を参照してください。

---

1. 端末デバイスまたは端末エミュレーションソフトウェアを次の設定で構成します。

- 8N1 (データビット 8、パリティなし、ストップビット 1)
- 9600 ボー (デフォルト。標準速度は最大 57600 まで設定できます)
- ハードウェアのフローコントロール無効 (CTS/RTS)

2. ドングルケーブルをサーバーモジュールのフロントパネルにある UCP コネクタに接続します。

可能であれば、4 コネクタの UCP-4 ではなく、3 コネクタの UCP-3 ドングルケーブルを使用してください。詳細は、[16 ページの「ドングルケーブル」](#)を参照してください。

3. 端末または端末エミュレータをドングルケーブルに接続します。

- UCP-3 ドングルケーブルの場合、RJ-45 コネクタを使用します。
- UCP-4 ドングルケーブルの場合、DB-9 シリアルコネクタ (TTYA) を使用します。UCP-4 に RJ-45 で接続する必要がある場合は、DB-9 コネクタに接続する DB-9/RJ-45 アダプタを使用してください。

端末または端末エミュレータに Oracle ILOM ログインプロンプトが表示されます。

4. プロンプトが表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。

デフォルトのユーザーは root です。デフォルトのパスワードは changeme です。

これで、サーバーモジュール SP 上の Oracle ILOM にログインしました。

5. サーバーモジュールの ILOM プロンプトで、次のように入力します。

```
-> start /SYS
Are you sure you want to start /SYS (y/n)? y
Starting /SYS. . .
```

サーバーモジュールが初期化されます。

6. 通信をサーバーモジュールホストに切り替えます。

Oracle ILOM プロンプトが表示されたら、次のように入力します。

```
-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
```

サーバーモジュールで POST を完了するのに、数分かかることがあります。Oracle Solaris OS がインストールされている起動デバイスにローカルからアクセスできる場合は、サーバーモジュールが起動します。ローカルからアクセスできない場合、サーバーモジュールは boot net コマンドを使用して、ネットワーク上の起動デバイスを検索します。

これで、サーバーモジュールのホストに接続しました。

7. サーバーモジュールハードウェアの設置はこれで完了です。

この段階まで来たら、目的どおりに Oracle Solaris OS を構成できます。[33 ページの「Oracle Solaris OS の構成」](#)を参照してください。

## 関連情報

- [15 ページの「設置中のサーバーモジュールとの通信を計画する」](#)
- [16 ページの「ドングルケーブル」](#)

# Oracle Solaris OS の構成

サーバーモジュールをモジュラーシステムに取り付けたら、はじめて電源を入れ、構成を開始できます。

説明	リンク
プリインストールされた Oracle Solaris OS を構成します。	<a href="#">33 ページの「OS を構成する」</a> <a href="#">34 ページの「Oracle Solaris の構成パラメータ」</a> <a href="#">36 ページの「静的 IP アドレスを SP に割り当てる」</a>
任意のバージョンの Oracle Solaris OS をインストールします。	<a href="#">34 ページの「Oracle Solaris ソフトウェアをネットワークからインストールする」</a> <a href="#">34 ページの「Oracle Solaris の構成パラメータ」</a> <a href="#">36 ページの「静的 IP アドレスを SP に割り当てる」</a>

## 関連情報

- [1 ページの「インストール作業の概要」](#)

## ▼ OS を構成する

次の手順は、サーバーモジュールのスロット 0 のドライブにプリインストールされた Oracle Solaris OS ソフトウェアを使用していることが前提となります。Oracle Solaris OS を別の方法でインストールする場合は、Oracle Solaris OS のインストールを完了してから、次の手順を再開してください。

- Oracle Solaris インストールプロセスの構成に関する質問に答えます。  
[34 ページの「Oracle Solaris の構成パラメータ」](#)に従って、計画した構成の内容を確認します。

## 関連情報

- [34 ページの「Oracle Solaris ソフトウェアをネットワークからインストールする」](#)
- [34 ページの「Oracle Solaris の構成パラメータ」](#)
- [36 ページの「静的 IP アドレスを SP に割り当てる」](#)

---

## ▼ Oracle Solaris ソフトウェアをネットワークからインストールする

インストール済みの Oracle Solaris OS 以外の Oracle Solaris OS ソフトウェアを使用する場合は、ネットワークから OS をインストールできます。

- 使用する予定の Oracle Solaris OS のバージョンについては、『Solaris インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。

このマニュアルは、次のサイトのシステムソフトウェアのカテゴリにある Oracle Solaris OS ドキュメントのコレクションから入手できます。

[http://www.oracle.com/technetwork/indexes/documentation/#sys\\_sw](http://www.oracle.com/technetwork/indexes/documentation/#sys_sw)

このマニュアルには、JumpStart サーバーの使用に関する情報が記載されています。

### 関連情報

- 33 ページの「OS を構成する」
- 34 ページの「Oracle Solaris の構成パラメータ」
- 36 ページの「静的 IP アドレスを SP に割り当てる」

---

## Oracle Solaris の構成パラメータ

サーバーモジュール上で Oracle Solaris OS を構成する場合は、次のパラメータを指定するように求められます。

---

パラメータ	説明
Language	表示された言語の一覧から番号を選択します。
Locale	表示された地域の一覧から番号を選択します。
Terminal Type	使用している端末デバイスに対応する端末のタイプを選択します。
Network?	「Yes」を選択します。
Multiple Network Interfaces	構成する予定のネットワークインタフェースを選択します。構成するネットワークインタフェースが不明である場合は、一覧の先頭のネットワークインタフェースを選択します。
DHCP?	使用しているネットワーク環境に応じて、「Yes」または「No」を選択します。

---

---

<b>Host Name</b>	サーバーのホスト名を入力します。
<b>IP Address</b>	この Ethernet インタフェースの IP アドレスを入力します。
<b>Subnet?</b>	使用しているネットワーク環境に応じて、「Yes」または「No」を選択します。
<b>Subnet Netmask</b>	Subnet? で「Yes」を選択した場合は、使用しているネットワーク環境のサブネットのネットマスクを入力します。
<b>IPv6?</b>	IPv6 を使用するかどうかを指定します。IPv6 を使用するかどうか不明である場合は、「No」を選択して IPv4 用の Ethernet インタフェースを構成します。
<b>Security Policy</b>	標準の UNIX セキュリティー (No) または Kerberos セキュリティー (Yes) のいずれかを選択します。セキュリティーが不明である場合は、「No」を選択します。
<b>Confirm</b>	画面上の情報を確認し、必要に応じて変更します。それ以外の場合は、処理を続行します。
<b>Name Service</b>	使用しているネットワーク環境に応じて、ネームサービスを選択します。 注 - 「None」以外のネームサービスを選択すると、追加のネームサービスの構成情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。
<b>NFSv4 Domain Name</b>	使用している環境に応じて、ドメイン名構成のタイプを選択します。ドメイン名構成が不明な場合は、「Use the NFSv4 domain」を選択します。
<b>Time Zone (Continent)</b>	該当する大陸を選択します。
<b>Time Zone (Country or Region)</b>	該当する国または地域を選択します。
<b>Time Zone</b>	タイムゾーンを選択します。
<b>Date and Time</b>	デフォルトの日付と時刻を受け入れるか、値を変更します。
<b>root Password</b>	root パスワードを 2 回入力します。このパスワードは、このサーバーの Oracle Solaris OS のスーパーユーザーアカウント用です。このパスワードは、SP のパスワードではありません。

---

## 関連情報

- [33 ページの「OS を構成する」](#)
- [34 ページの「Oracle Solaris ソフトウェアをネットワークからインストールする」](#)
- [36 ページの「静的 IP アドレスを SP に割り当てる」](#)

## ▼ 静的 IP アドレスを SP に割り当てる

デフォルトでは、サーバーモジュールは、ネットワークの DHCP サービスを使用して IP アドレスを取得するように構成されています。サーバーモジュールが接続されているネットワークが IP アドレス指定を行う DHCP をサポートしていない場合は、次の手順に従います。

DHCP をサポートするようにサーバーモジュールを構成するには、Oracle ILOM のドキュメントを参照してください。

1. 静的 IP アドレスを受け入れるように SP を設定します。

```
-> set /SP/network pendingipdiscovery=static
Set 'pendingipdiscovery' to 'static'
```

2. SP の IP アドレスを設定します。

```
-> set /SP/network pendingipaddress=service-processor-IPAddr
Set 'pendingipaddress' to 'service-processor-IPAddr'
```

3. SP ゲートウェイの IP アドレスを設定します。

```
-> set /SP/network pendingipgateway=gateway-IPAddr
Set 'pendingipgateway' to 'gateway-IPAddr'
```

4. SP のネットマスクを設定します。

```
-> set /SP/network pendingipnetmask=255.255.255.0
Set 'pendingipnetmask' to '255.255.255.0'
```

この例では、255.255.255.0 を使用してネットマスクを設定します。ご使用のネットワーク環境のサブネットでは、異なるネットマスクが必要になる場合があります。使用している環境にもっとも適したネットマスク番号を使用してください。

5. 保留中のパラメータが適切に設定されたことを確認します。

```
-> show /SP/network
/SP/network
Targets:
Properties:
  commitpending = (Cannot show property)
  dhcp_server_ip = xxx.xxx.xxx.xxx
  ipaddress = xxx.xxx.xxx.xxx
  ipdiscovery = dhcp
```

```
ipgateway = xxx.xxx.xxx.xxx
ipnetmask = 255.255.255.0
macaddress = 00:21:28:C1:6E:C5
managementport = /SYS/MB/SP/NETMGMT
outofbandmacaddress = 00:21:28:C1:6E:C5
pendingipaddress = service-processor-IPaddr
pendingipdiscovery = static
pendingipgateway = gateway-IPaddr
pendingipnetmask = 255.255.255.0
pendingmanagementport = /SYS/MB/SP/NETMGMT
sidebandmacaddress = 00:21:28:C1:6E:C4
state = enabled
```

6. SP のネットワークパラメータに対する変更を確定します。

```
-> set /SP/network commitpending=true
Set 'commitpending' to 'true'
```

---

注 - show /SP/network コマンドをもう一度実行し、パラメータが更新されたことを確認できます。

---

7. Oracle Solaris OS を構成するときの静的 IP アドレスを設定します。

[33 ページの「OS を構成する」](#)を参照してください。

関連情報

- [33 ページの「OS を構成する」](#)
- [34 ページの「Oracle Solaris ソフトウェアをネットワークからインストールする」](#)
- [34 ページの「Oracle Solaris の構成パラメータ」](#)



# 用語集

---

---

## A

- ANSI SIS American National Standards Institute Status Indicator Standard (米国規格協会状態インジケータ規格)。
- ASF Alert Standard Format (警告標準フォーマット) (Netra 製品のみ)。
- ASR Automatic System Recovery (自動システム回復)。
- AWG American Wire Gauge。

---

## B

- blade (ブレード) サーバーモジュールおよびストレージモジュールの一般名称。 [server module \(サーバーモジュール\)](#) および [storage module \(ストレージモジュール\)](#) を参照してください。
- blade server (ブレードサーバー) サーバーモジュール。 [server module \(サーバーモジュール\)](#) を参照してください。
- BMC Baseboard Management Controller。
- BOB ボード上のメモリーバッファ。

---

## C

- chassis (シャーシ)** サーバーの場合は、サーバーの格納装置を指します。サーバーモジュールの場合は、モジュラーシステムの格納装置を指します。
- CMA** ケーブル管理アーム。
- CMM** シャーシ監視モジュール。CMM はモジュラーシステムに内蔵のサービスプロセッサです。Oracle ILOM は CMM 上で動作して、モジュラーシステムシャーシ内のコンポーネントの電源管理 (LOM) を提供します。[Modular system \(モジュラーシステム\)](#) および [Oracle ILOM](#) を参照してください。
- CMM Oracle ILOM** CMM 上で動作する Oracle ILOM。[Oracle ILOM](#) を参照してください。

---

## D

- DHCP** 動的ホスト構成プロトコル。
- disk module (ディスクモジュール)**  
または **disk blade (ディスクブレード)** ストレージモジュールの別名。[storage module \(ストレージモジュール\)](#) を参照してください。
- DTE** Data Terminal Equipment (データ端末装置)。

---

## E

- EIA** Electronics Industries Alliance (米国電子工業会)。
- ESD** Electrostatic Discharge (静電放電)。

---

## F

- FEM** ファブリック拡張モジュール。FEM により、サーバーモジュールは特定の NEM によって提供される 10GbE 接続を使用できます。[NEM](#) を参照してください。
- FRU** Field-Replaceable Unit (現場交換可能ユニット)。

---

## H

**HBA** ホストバスアダプタ。

**host (ホスト)** サーバーまたはサーバーモジュールの中の、CPU およびその他のハードウェアを備え Oracle Solaris OS およびその他のアプリケーションを実行する部分。ホストという用語は、主コンピュータと SP を区別するために使用されます。SP を参照してください。

---

## I

**ID PROM** サーバーまたはサーバーモジュールのシステム情報が格納されたチップ。

**IP** Internet Protocol (インターネットプロトコル)。

---

## K

**KVM** キーボード、ビデオ、マウス。複数のコンピュータで1つのキーボード、1つのディスプレイ、1つのマウスを共有するには、スイッチの使い方を参照してください。

---

## L

**LwA** 音響パワーレベル。

---

## M

**MAC** Machine Access Code (マシンアクセスコード)。

**MAC アドレス** メディアアクセス制御アドレス。

**Modular system (モジュラーシステム)** サーバーモジュール、ストレージモジュール、NEM、および PCI EM を収納するラックマウントシャーシ。モジュラーシステムは、その CMM を介して Oracle ILOM を提供します。

**MSGID** メッセージ識別子。

---

## N

**name space (名前空間)** 最上位の Oracle ILOM CMM ターゲット。

**NEBS** Network Equipment-Building System (ネットワーク機器構築システム) (Netra 製品のみ)。

**NEM** Network Express Module。NEM は、10/100/1000 Mbps Ethernet、10GbE Ethernet ポート、および SAS 接続をストレージモジュールに提供します。

**NET MGT** ネットワーク管理ポート。サーバー SP、サーバーモジュール SP、および CMM 上の Ethernet ポート。

**NIC** ネットワークインタフェースカードまたはネットワークインタフェースコントローラ。

**NMI** マスク不可能割り込み。

---

## O

**OBP** OpenBoot PROM。

**Oracle ILOM** Oracle Integrated Lights Out Manager。Oracle ILOM ファームウェアは、各種 Oracle システムにインストール済みです。Oracle ILOM を使用すると、ホストシステムの状態に関係なく、Oracle サーバーをリモートから管理できます。

**Oracle Solaris OS** Oracle Solaris オペレーティングシステム。

---

## P

**PCI** Peripheral Component Interconnect。

**PCI EM** PCIe Express Module。PCI Express の業界標準フォームファクタに基づくモジュラーコンポーネントで、ギガビット Ethernet やファイバチャネルのような I/O 機能を提供します。

- POST Power-On Self-Test (電源投入時自己診断)。
- PROM Programmable Read-Only Memory (プログラム可能な読み取り専用メモリー)。
- PSH Predictive Self Healing (予測的自己修復)。

---

## Q

- QSFP Quad Small Form-factor Pluggable (クワッドスモールフォームファクタ・プラグابل)。

---

## R

- REM RAID 拡張モジュール。HBA とも呼びます。HBA を参照してください。ドライブへの RAID ボリュームの作成をサポートします。

---

## S

- SAS Serial Attached SCSI。

- SCC System Configuration Chip (システム構成チップ)。

- SER MGT シリアル管理ポート。サーバー SP、サーバーモジュール SP、および CMM 上のシリアルポート。

- server module  
(サーバーモジュール)
- モジュラーシステムで主要な演算リソース (CPU とメモリー) を提供するモジュラーコンポーネント。サーバーモジュールには、オンボードストレージおよび REM と FEM を保持するコネクタがある場合もあります。
- SP サービスプロセッサ。サーバーまたはサーバーモジュールの SP は、専用の OS を搭載したカードです。SP は ILOM コマンドを処理し、ホストの電源管理 (LOM) を提供します。host (ホスト) を参照してください。
- SSD Solid-State Drive (半導体ドライブ)。
- SSH Secure Shell。
- storage module  
(ストレージモジュール)
- サーバーモジュールに演算ストレージを提供するモジュラーコンポーネント。

---

## T

- TIA Telecommunications Industry Association (米国通信工業会) (Netra 製品のみ)。
- Tma 最大周囲温度。

---

## U

- UCP ユニバーサルコネクタポート。
- UI User Interface (ユーザーインタフェース)。
- UL Underwriters Laboratory Inc.
- US. NEC United States National Electrical Code (米国の電気工事基準)。
- UTC Coordinated Universal Time (協定世界時)。
- UUID Universal Unique Identifier (汎用一意識別子)。

---

## W

- WWN World Wide Name。SAS ターゲットを一意に特定する番号。

# 索引

---

## C

- CMM NET MGT ポート, 15
- CMM SER MGT ポート, 15
  - 取り付けのための使用, 27
- CMM の IP アドレス, 24

## D

- DIMM の種類, 2

## E

- Ethernet ポート, 2

## F

- FEM, 2

## I

- ILOM root パスワード、デフォルト, 24, 25, 27, 30
- IP アドレス、構成, 36
- IP アドレスの構成, 36
- IP アドレスの取得に使用する DHCP, 36

## K

- KVMS, 2

## L

- LED
  - 取り付け時, 21
  - フロントパネル, 4

## M

- MAC アドレス, 12

## O

- Oracle Solaris
  - 構成設定, 34
  - 設定, 33
- Oracle Solaris OS の構成, 33
- Oracle Solaris OS の構成設定, 34
- Oracle Solaris の構成設定, 34
- OS
  - Oracle Solaris の構成設定, 34
  - ネットワークからのインストール, 34

## P

- PCIe EM, 2

## R

- REM, 2
- root パスワード、デフォルト, 24

## S

- server module (サーバーモジュール)
  - 電源投入, 23
  - OS の構成, 33
  - 起動, 27
  - 機能, 2
  - 取り付け, 19
  - ネットワークからの OS のインストール, 34
  - 理解, 1
- set コマンド, 36
- show コマンド, 36
- ssh コマンド, 25
- start コマンド, 25, 27

## U

UCP ケーブル, 16  
UCP コネクタ, 2, 4, 30  
USB 接続, 16

## V

VGA 接続, 16

## W

Web インタフェース, 24

## あ

アーキテクチャー、プロセッサ, 2

## い

インストール  
計画, 7, 11  
作業の概要, 1  
シャーシの準備, 19  
必要な工具類, 14

## お

奥行, 7  
オプションのコンポーネント, 20  
温度仕様, 8

## か

環境仕様, 8  
関連ドキュメント, v  
概要、取り付け作業, 1

## き

機能、サーバーモジュール, 2

## く

グラフィックス、オンボード, 2

## け

ケーブル、ドングル, 16

## こ

高度仕様, 8  
顧客情報シート, 12

コネクタカバー, 21  
コンポーネント、オプション, 20

## さ

サーバーへの接続  
CMM NET MGT ポート (CLI), 25  
CMM NET MGT ポート (Web インタ  
フェース), 24  
CMM SER MGT ポート (CLI), 27  
UCP コネクタ, 30  
サーバーモジュール  
シャーシへの挿入, 21  
サーバーモジュールとの通信, 15  
サーバーモジュールの概要, 1  
サーバーモジュールの起動, 27  
サーバーモジュールの取り付け, 19  
サーバーモジュールへの電源投入, 23  
作業のポーレート、インストール, 1

## し

システムファームウェア, 2  
湿度仕様, 8  
シャーシ  
サーバーモジュールの挿入, 21  
準備, 19  
出荷キットの内容一覧, 12  
仕様  
環境, 8  
電気, 9  
物理, 7  
シリアルケーブルのピン配列, 27  
シリアルポート接続, 15, 16  
シリアルリダイレクト, 24  
重量, 7

## す

寸法, 7

## せ

静的 IP アドレス, 36  
静電気放電に関する注意事項, 13

静電気防止用マットおよびリストストラップ (取り  
付け), 14

設置の計画, 7, 11

接続方法, 15

## た

高さ, 7

## ち

注意事項

処理, 13

ESD, 13

## て

データコネクタ, 4

電圧仕様, 9

電気仕様, 9

電源コネクタ, 4

電源仕様, 9

電源ボタン, 4

## と

取り扱い上の注意, 13

取り付けに必要なツール, 14

取り付けのための CLI, 25

取り外しレバー, 21

ドキュメント、関連, v

ドングルケーブル, 15, 16, 30

## は

背面パネルのコンポーネント, 4

幅, 7

## ふ

フィラーパネル, 21

フロントパネルのコンポーネント, 4

物理仕様, 7

プロセッサアーキテクチャー, 2

## め

メモリー, 2

## も

モジュラーシステムシャーシの準備, 19

## り

リセットボタン, 4

リモートコンソール, 24

## れ

冷却, 2

